

小児科開業医として 最近感じること



教育随想

岡崎小児科医会
会長 水野 周久 氏

私が開業医になったところと比べますと、医療現場も大きく変わってきました。電子カルテは一般的なものになり、様々な検査機器や迅速検査キットによって、診断の精度も大きく向上しました。患者さんも殆どの方がスマホを利用して診療予約をし、病気について、ネットで予め勉強して受診される方も目立つようになり、外国人の患者さんも珍しいものでは無くなってきています。発達障害や不登校などの相談を受けることも多くなりました。

情報化社会が進み大変便利な社会になっていますが、様々な問題も表面化してきています。児童生徒の殆どがスマホを持っており、SNS等で情報のやり取りをしているようですが、時にはそれがいじめ等の道具となってしまうこともあるようです。日本の子供たちのメディア接触時間は世界で最も長く、感情や欲望を制御したり、論理的に物事を考えたりする、脳の前頭前野という部分

の働きが悪くなるとの指摘もされています。

情報が自分の価値基準に照らして本当に役立つ情報かどうかを取捨選択する能力を磨くことは、情報化社会を生き抜くためにはどうしても必要です。今後急速に発達するであろうAI（人工頭脳）は、社会生活そのものを大きく変えていくと思えます。このような時代では、人間関係を如何に良好に保っていくかが非常に重要です。相手の眼差しや表情から相手の気持ちを感じ取り、細かな配慮をもって接することや、共感の心をもって相手の話を聞くことは人間にしかできないものです。

人はそれぞれが異なった能力をもっており、また、育った環境によって異なった考え方もつようになります。自分とは違った考えをもつ人と相手の立場を尊重し共感しながら直に交わることによって、様々な観点から物事を考えることが出来るようになります。

人それぞれが異なった能力をもっていることを再認識し、特性や才能・能力に応じて、それぞれの子供たちの可能性を、学校現場だけでなく社会全体が協力して伸ばしてあげることが、今後更に国際化、多様化していく時代に不可欠な課題であると思えます。

(みずの ともしさ)



令和2年3月1日

3月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

- 教育随想…………… 1
岡崎小児科医会
会長 水野 周久 氏
- この人に聞く…………… 2
2018年身体障がい者野球
日本代表選手
水越 大暉 氏
- 羅針盤…………… 2
社会科指導員 森田 淳一
- ふれあい…………… 3
岡崎小学校
教諭 和泉 篤
- 特集…………… 4
1年のあゆみ
- お知らせ…………… 6
- フォト・ヒストリー… 8
わかしゃち国体炬火受入式
(平成6年)
- この本を…………… 8

この人に聞く



人に勇気を与える

二〇一八年身体障害者野球
日本代表選手

水越 大暉 氏

一昨年開催された『二〇一八世
界身体障害者野球大会』の日本代表
チームのピッチャーとして、世界一
を勝ち取った水越氏。

氏は、小学一年生のときに父親と
観戦したプロ野球の試合に感銘を受
け、地元の軟式野球チームで野球を
始めた。その矢先、足や股関節が硬
くなって動きにくくなる下肢障がい
であることが発覚した。

「小中学生のときは、試合に出場で
きないことが悔しかったです。何で
自分だけみんなと同じようにできな
いのだと思いました。」

それでも選手になることを諦め
ず、高校でも野球を続けた。しかし、
二年生のとき、監督に「学生コーチ
になってほしい」と打診された。

「悔しくて、三日間家で泣きました。
気持ちの切り替えができず、本当に
つらかったです。」

水越氏は野球に携わり続けること
を選び、本意ではなかったが、コー
チになることを受け入れた。しかし、
選手として野球をやりたい気持ちを
ずっともち続けていた。そんなとき、
中学生の頃に耳にした『身体障害者
野球』の話を思い出す。

「身体障害者野球のチームを調べ
て、試合を見学に行きました。そこ
で見たのは、ハンデを背負っていて
も、本気で楽しそうに野球をしてい
る選手の姿でした。その姿が心に響
いて、その場で一緒にプレーをさせ
てほしいとお願いました。」

チームに入って活動すると、いろ
いろな発見があった。
「片手一本でホームランを打つ人
や、指三本でボールを捕ったり、投
げたりする人がいて驚きました。失
われた機能があっても、残りの機能
でプレーできることに勇気をもらい
ました。自分ももつとできるから頑
張ろうと思いました。」

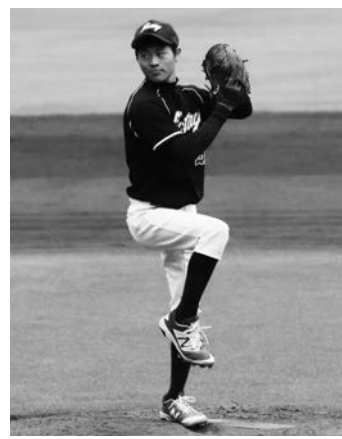
水越氏は高校卒業後、仕事と両立
しながら今まで以上に本気で野球に
打ち込んだ。週一回の所属チームで
の練習以外にも、ジムに通って筋力
トレーニングに励み、上半身を徹底
的に鍛えた。そして、四年をかけ、
一二〇キロの速球を投げるまでに
なった。そうした努力が実を結び、

世界一の栄冠を勝ち取ることがで
きた。

「障がいのことでつらいことがいろ
いろあっても、途中で投げ出さずに
やり続けたことが良い結果に結びつ
いたと思います。」

氏の障がいは月日が経つにつれて
徐々に進行していくため、氏には常
に不安や恐怖があるという。それ
も、前を向いて野球を続ける。

「障がいのことを考えても仕方ない
ので、今できることをやり切りたい
と思っています。今は野球をすること
が生かされています。私は野球を通し
て成長することができました。野球
への恩返しだと思って、力の限り野
球に打ち込みたいと思います。障が
いがある人や、子供たちに勇気を与
えられる姿を見せたいです。」
そう語る目には、闘志がみなぎっ
ていた。



氏名 水越大暉 氏
生年月日 平成十年十二月二十一日
住所 岡崎市川向町

羅針盤

人に迫り、未来を紡ぐ

社会科指導員
森田 淳一

社会は人が構築してきたものであ
る。そして、未来の社会を構築する
主人公は子供たちである。社会科で
は、自分が社会の一員であることを
自覚し、どんな未来を築きたいのか
について、根拠を基にして選択・
判断する力を高める学びが求めら
れる。

その力は、「主体的・対話的で深
い学び」を通して実現される。この
学びにおける教師の役割は、子供の
目が輝く教材開発と単元構成、そし
て、教師が学ばせたい内容に迫るた
めの話し合いにおける教師の出で
ある。

A教諭は、五年生「くらしを支え
る食料生産」の単元で、「岡崎市の
農業」を教材研究し、若い新規就農
者に出会った。取材を進め、農業へ
の工夫や努力に迫ることができると
考え、教材化して授業に取り組んだ。
学区に農地がないことから、米は



安心してできる場所

岡崎小学校
教諭 和泉 篤

四年生のAは、誰に対しても優しく接すると同時に、強い意志をもっている。一方で、慎重な面があり、進んで自分の考えを話すことは少なかった。自分がしたいことを言葉で伝えるように促しても、黙って首を傾げ、目にもうすらと涙を浮べる。その姿から、失敗を恐れ、周りの目を気にするAの不安な気持ちが伝わってきた。

一学期の道徳の授業で、Aはほとんど発言しなかったが、話す子の顔をしっかりと見て聴き、ワークシートには自分の考えや、級友の考えのよさが記されていた。私は、そんなAのよさを学級全体に伝えたいと思

い、Aを呼んで褒め、Aに考えをみんなにも伝えてほしいと話した。

十月、おかげさつ子展の制作で、Aは、思うように釘を木板に打ち込むことができず焦っていた。Aは、休み時間も使い、何度もやり直しながら釘を打った。すると、周りにいた子供たちが、「釘持ってこようか」「真上からまっすぐ打つといいよ」と声を掛け始めた。その声に、Aはほっとした顔を見せ、落ち着いて制作を続けた。私は、子供たちに「ありがとう」と伝えた。

Aのよさは、級友の受容や励ましによって表出されると考えた。そこで、関わりが生まれやすい道徳の授業で、学級全体で話し合いの約束を決めた。

「自分が真剣に考えたことなら、何を言ってもいい。聴く方は、必ず最後まで聴こう。どんな考えでも、自分の考えと同じように大切にしよう。Aを見てごらん。いつもみんなの話を真剣に聴いているよ。」

十一月、道徳の授業の中盤、主人公の行動をどう思うかを話し合う場面で、挙手したAを指名した。話し出してすぐ、Aの言葉が止まってしまった。視線が宙をさまよい、まばたきが多くなる。そのとき、周りの

子供たちが声を掛けた。

「大丈夫。みんな聴いてるよ。」

すると、Aの顔から不安が消え、「僕は、みんなとはちよつと違うんだけど……」と、自分の考えを話すことができた。今までの彼の姿を思うと、大きな進歩であった。

十二月の終わり、一学期を振り返って、できるようになったことを発表する機会を設けた。Aは、

「僕は今まで、笑われたり、『えっ』という顔をされたりすることが怖くて、発言するのがとてもいやでした。でも、道徳の授業で、どんな考えでも、みんなが聴いてくれることが分かって、とてもうれしかったです。」

と、しっかりとした口調で話し、周りからは拍手が起こった。

Aの成長から、教室は、誰もを受け入れる、安心してできる場所であることが大切なのだと教えられた。



どこで作られているのかという疑問が生まれ、岡崎の農業を調べ始めた子供たち。資料を追究する中で、農家の高齢化や後継者不足などの問題点が見つかり、「私たちの食は大丈夫なのだろうか」という課題意識が生まれた。そこで教師は、単元を貫く課題として「岡崎で若い農家は増えるだろうか」を設定した。

農家Bの見学調査では、広い農地を大きな機械で耕作する様子を見た子供から「すごい」と声が上がった。一方で、「若い人はこの規模のまねはできない」と心配の声もあった。

子供は、農業衰退の危機への切実感を高めながら、話し合いに臨んだ。

「もうからないし、仕事は大変」「高い技術と費用が必要」と農家が増えない方向に議論が進んだとき、A教諭は前時の感想をつかんでいた児童Cを意図的に指名した。児童Cは、「農家Bと同じことは難しいけれど、成功した要素を取り出せば農家は増える」と発言した。これをきっかけに「品質向上・機械化・宣伝・販売方法」など、成功の要素に着目し、持続可能な農家像を描く議論に発展していった。単元の終末では、

「農家に感謝し、将来、農業に関わりたい」と自らの考える社会参画の姿を語る児童の姿もあった。

教師が教え込む社会科から脱却し、伴走者として共に学ぶ社会科授業をめざしていきたい。



▲1. 12令和元年度1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」小学生の部 奨励賞 常磐東小



▲12. 26第7回全国小中学校リズムダンスふれあいコンクール自由曲小学生部門 2位 生平小



▲12. 15第27回全国中学校駅伝大会女子の部 優勝 六ツ美北中



▲11. 23第38回全国小学生バンドフェスティバル銅賞 竜美丘小

Table with columns for year, month, day, event name, award, school name, and location. Includes events like '2019 Aichi Maiching Conference', '6th National Diversity Japanese Folk Song Competition', and '31st National School Relationship Greening Competition'.

Table with columns for year, month, day, event name, award, school name, and location. Includes events like '38th Aichi Middle School Volleyball New Person Conference', '47th Aichi GYMNASEUM Drawing Competition', and '44th Aichi Young People's Design Competition'.



表彰

◆愛知県中学校総合体育大会

○スキー競技 回転男子
四位(全国大会出場)
竜海中 田中 一輝

○スキー競技 大回転女子
四位(全国大会出場)
葵中 鈴木 優和

◆第7回全国小・中学校リズムダンスふれあいコンクール全国大会

○自由曲小学生部門
二位 生平小学校
チーム生平4・5・6年

○規定曲中学生部門
三位 河合中学校 河合☆☆



◆第36回教育研究助成事業

○学校研究
優秀論文 常磐東小学校

◆令和元年度1・17防災未来賞「ぼうさい甲子園」
○小学生の部
奨励賞(全国三位)
常磐東小学校

◆2019年度水質パトロール隊事業
最優秀賞
矢作北中学校 科学部

◆第63回日本学生科学賞
日本科学未来館賞
竜海中 山内 幸生

◆第46回東海アンサンブルコンテスト
○金管八重奏
六ツ美中学校
(全国大会に進出)

○打楽器六重奏
銀賞 竜海中学校
金賞 六ツ美中学校

◆愛知県アンサンブルコンテスト
○木管八重奏
六ツ美中学校
金賞

○金管八重奏
六ツ美中学校
六ツ美中学校

○打楽器六重奏
銀賞 竜海中学校
金賞 六ツ美中学校

○金管八重奏
金賞・愛知県教育委員会賞
六ツ美中学校
(東海大会に進出)

○打楽器六重奏
金賞 竜海中学校
(東海大会に進出)

◆第12回こども絵画コンクール
○小学校高学年の部
愛知県青年の家所長賞
羽根小 板井 明生

◆第47回人権を理解するコンクール
○ポスターの部
最優秀賞
甲山中 島 遙日

○標語の部
佳作 甲山中 中根 朱里

◆第20回全国中学生創造ものづくり教育フェア創造アイデアロボットコンテスト
○基礎部門
三位(優秀賞)
福岡中 鷲津 晴大

○学校研究
優秀賞 常磐東小学校

◆2019年度防災教育チャレンジプラン
防災教育優秀賞(全国二位)
常磐東小学校

◆2019ソニー子ども科学教育プログラム
奨励校 小豆坂小学校
三島小学校

○II部門(授業内製作部門)
全国市町村教育委員会連合会長賞
矢作中 松本銀之助

○中学校 高等学校の部
佳作 城北中 米坂 達也

○第五部 和文A 中学生部門
優秀賞
福岡中 山田 響

◆第20回全国中学生創造ものづくり教育フェアパソコン入力コンクール
優秀賞
福岡中 山田 響

○II部門(授業内製作部門)
全国市町村教育委員会連合会長賞
矢作中 松本銀之助

○中学校 高等学校の部
佳作 城北中 米坂 達也

○第五部 和文A 中学生部門
優秀賞
福岡中 山田 響

○II部門(授業内製作部門)
全国市町村教育委員会連合会長賞
矢作中 松本銀之助

○中学校 高等学校の部
佳作 城北中 米坂 達也

○第五部 和文A 中学生部門
優秀賞
福岡中 山田 響

○II部門(授業内製作部門)
全国市町村教育委員会連合会長賞
矢作中 松本銀之助

○中学校 高等学校の部
佳作 城北中 米坂 達也

○第五部 和文A 中学生部門
優秀賞
福岡中 山田 響

○II部門(授業内製作部門)
全国市町村教育委員会連合会長賞
矢作中 松本銀之助

○中学校 高等学校の部
佳作 城北中 米坂 達也

◆第65回青少年読書感想文
愛知図書協会賞
井田小 金山 流昂

○第五部 和文A 中学生部門
優秀賞
福岡中 山田 響

○II部門(授業内製作部門)
全国市町村教育委員会連合会長賞
矢作中 松本銀之助

○中学校 高等学校の部
佳作 城北中 米坂 達也

○第五部 和文A 中学生部門
優秀賞
福岡中 山田 響

○II部門(授業内製作部門)
全国市町村教育委員会連合会長賞
矢作中 松本銀之助

○中学校 高等学校の部
佳作 城北中 米坂 達也

○第五部 和文A 中学生部門
優秀賞
福岡中 山田 響

○II部門(授業内製作部門)
全国市町村教育委員会連合会長賞
矢作中 松本銀之助

○中学校 高等学校の部
佳作 城北中 米坂 達也

○第五部 和文A 中学生部門
優秀賞
福岡中 山田 響

○II部門(授業内製作部門)
全国市町村教育委員会連合会長賞
矢作中 松本銀之助

連尺小 清水 莉理
 美合小 石川 和花
 美合小 加藤 篤
 羽根小 安田 こと
 矢作東小 高須 玲帆
 矢作東小 隅 瑤蘭
 交善塾 隅 瑤蘭
 山中小 安藤 和子
 井田小 米本 琴音
 矢作南小 山本 祐愛
 岩津小 吉村 百加
 竜南中 志治 和
 北中 小澤 桃果
 南中 水野まほろ

◆読書感想文・読書感想画コンクール表彰式

一月三十一日(金)、総合学習センター小ホールにて、第55回岡崎市小中学校読書感想文・読書感想画コンクール表彰式が行われた。読書感想文一六七一点、読書感想画一八四九一点の中から選ばれた31名が出席した。入賞者は以下のとおり。

○読書感想文
市長賞

井田小 金山 流昂



六名小 杉浦 笑万
 葵中 春原 陸
 市議会議長賞
 緑丘小 日置 千織
 六名小 鈴木 莉緒
 甲山中 中根 綾乃

教育委員会賞

三島小 判治 里紗
 常磐東小 小幡 美桜
 交善塾 廣瀬 琉翔
 竜美丘小 鈴木 佐和
 福岡小 松井 菜花
 矢作南小 榎谷 太亮
 男川小 小野田頼人
 美合小 小林 蒼空
 大樹寺小 小林 聖哉
 小豆坂小 湯藤 倫也
 矢作北中 村上ほのか
 翔南中 高松 真悠
 竜海中 山本 愛結
 河合中 川澄 春菜
 岡崎小 青木 稜馬

○読書感想文画

岡崎南ライオンズクラブ会長賞



岡崎南ライオンズクラブ会長賞
竜南中 田原万由子

●ハートピアだより

井田小 唐澤 翔
 竜南中 田原万由子
 教育委員会賞
 矢作南小 三井 環玖
 矢作東小 高須 玲帆
 交善塾 道本 瑛万
 連尺小 清水 莉理
 常磐小 峰原 悠人
 北野小 櫻井 詩恩
 美合小 石川 和花
 北中 小澤 桃果

○三学期の通所が始まり、一週間が過ぎた。二学期から安定して過ごしている子供たちの表情はとても穏やかである。一時間でも学校に顔を出し、通所することを続けているA男、B子をはじめ、次年度への覚悟を感じさせる通所生たちである。

●適応教室運営状況

A小学校では、適応教室を利用する子供専用の下駄箱を設置している。これにより、登校した子供は、誰にも会わずに適応教室へ行くことができる。監督者は常時一〜二名おり、一日一回は担任が顔を出すようにしている。

対人スキルの向上にも努めている。「教室へは行けないが、適応教室なら行ける」と安心して登校するようになった子供が増えた。

B中学校の適応教室は、運営方針を見直し、子供の実態に応じて柔軟に対応している。子供の自主性を育むために、登校後は子供が一日の間割を決め、教員補助者と一緒に授業を受けに行ったり、適応教室で目的をもって学習に取り組んだりしている。

教室環境の特徴は、室内を衝立やカーテンで仕切り、子供が心の状態に応じて過ごすスペースを決めていることである。このことにより子供は、学校に居場所を見つけることができている。

【お詫びと訂正】

二月号に誤りがありました。お詫びして訂正します。

◆年度の研究発表校

○緑丘小学校(国語科・算数科)
十月二十一日(水)

【研究主題】

主体的に学び続ける子供の育成
―「まちガエル」かんガエル―
ふりカエルで「みちガエル」―

・カ
ツ
ト
六ツ美北中
岡
義輝

きよか わかしゃち国体炬火受入式 (平成6年)

写真提供：秦梨小学校

平成六年、愛知県で第四十九回国民体育大会「わかしゃち国体」が開催された。写真は、秦梨小学校で行われた炬火受入式の様子である。オリンピックの聖火にあたる炬火は、県内各地を巡り、岡崎市でもリレーされた。その火を特別に分火してもらい、学校で大切に灯した。

「わかしゃち国体」では、岡崎市で、アーチェリーや空手、バスケットボールの試合が行われた。中央総合公園の開会セレモニーで、市内の小学生がマスをゲームを行うなど、多くの小中学生が参加し、活躍した。岡崎の子供たちは、国民体育大会や万国博覧会などの行事に携わり、会に花を添えてきた。こうした大きな行事への参加を通して、郷土を愛する心が育まれる。



「東京ドームで投げるのが夢でした」と水越氏。憧れの地で、捕手を務める父親に投げた始球式は、人生でいちばんうれしかったと語る。

水越氏の姿から、夢をもち、努力し続けることの素晴らしさを改めて学んだ。望み続けければ、夢はきつとかなう。

朗らかな陽気になってきた。すっかり慣れ親しんだ教え子たちとの別れの日が近づいている。

何事にも進んで取り組む子、何度も話し論じた子、どの子もそれぞれ成長している。みんなの成長を認め、喜び、最後の日を迎えたい。

ど ホ ツ

弥生



葉立ちの日

伝えたい思いは、子供たちの心の中にたくさんある。自分の意見を受け止めてもらえ、友達の見聞を受け止めてくれる。残り少ない日々、みんなが安心できる教室で、子供たちと一緒に素敵な思い出を作りたい。



***いじめを生む教室** 荻上 チキ
PHP新書 ￥920

心に残った一文

どうすれば、教室でのいじめを「増やす」ことができると思いますか？

「児童にストレスを与えいらつかせる」「小さなトラブルを見て見ぬふりをする」等、いじめを増やす方法はいくつでも思いつく。逆に考えれば、教師が気を付けて対応すれば、「いじめが発生しにくい土壌」を作れると筆者は言う。

いじめを、統計と実際の事例を通して分析的に読み解く論法で書かれており、説得力がある。いじめのない教室にするには、「わかりやすい授業」「ルールを適切に共有」等、教師がストレスに耐えられず取り除く側になり、信頼を得られるようにコミュニケーションをとることが必要だ。そのためには、教師がゆとりをもたねばならない。働き方改革の目的がここにある。

***こどもを育む環境 蝕む環境** 仙田 満
朝日新聞出版 ￥1,700

***暴走する能力主義** 中村 高康
ちくま新書 ￥820

***教育格差** 松岡 亮二
ちくま新書 ￥1,000

上地小 鈴木 勝久